

公益社団法人 地盤工学会

第 4 回 会員・支部部会

議 事 録

平成 27 年度

(12/11 版)

日 時：平成 27 年 12 月 11 日 (金) 15：00～17：00		会 場：地盤工学会 3 階会議室	
理 事 会 員・支 部 部 長 佐 藤 研 一 ○			
理 事 田 中 耕 太 郎 (会 員・支 部 担 当)	○	理 事 田 中 真 弓 (男 女 共 同 参 画・ダ イ ナ ミ ッ ティ (委) 委 員 長)	○
部 員 石 川 敬 祐 (継 続 教 育 シ ス テ ム 委 員 会 委 員 長)	○	部 員 須 賀 幸 一 (支 部 活 動 情 報 の 収 集 配 信 W G リ ー ダ ー)	×
部 員 石 井 裕 泰 (学 会 B C P 検 討 W G リ ー ダ ー)	×	部 員 遠 藤 一 郎 (支 部 活 動 情 報 の 収 集 配 信 W G サ ー ブ リ ー ダ ー)	×
部 員 渡 邊 康 司 (技 術 普 及 委 員 会 委 員 長)	○	理 事・副 会 長 古 屋 弘	×
事 務 局：伊 佐 治 ○ 廣 松 △			

○：出席 ×：欠席 △：未定

◎本日の議事録作成担当者（田中 耕太郎）

<p>議事録記載箇所の文頭符号に関する凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 報告事項 ➤ 課題もしくは要検討事項 ■ 部会決定事項

議 題：

1. 前回議事録の確認（2015 年 10 月 21 日開催）

資料－1 pp. 1～3

- ✓ 前回議事録が了承された。

2. 理事会報告（2015 年 10 月、11 月開催）

資料－2 pp. 4～13

- ✓ 理事会報告についても了承されたが、以下の意見があった。

- p 4 シニア会員減免については、古屋副会長の意図は確認が必要であるが、シニア会員会費減免の件はプレミアム会員制度立ち上げの経緯から困難というのが現状の結論である。ただし、プレミアム会員制度が有効に活用されていないのが実情であり、制度そのものも含め見直しの余地はあるかもしれない。事務局でプレミアム会員制度活用の実態を調査して頂くこととした。その上で、課題が見つかれば継続審議とする。

- ✓ p 1 0 「杭基礎構築の実態に関する特別委員会」は、古屋副会長を委員長として委員 6 名で構成。TBS からの取材申し込み等もあるとのこと。

- ✓ p 1 2 アジア会議 参加合計 9 1 6 名

3. 理事会からの検討依頼

資料－3 pp.14～38

1) 平成 28 年度予算（第 2 次案）等について

- ・第 2 次予算案の検討
- ・来年度の会員・支部部の活動について
- ・今年度の計画された事業の実行化について

- ✓ 佐藤部長及び伊佐治氏より来年度予算の一次案、二次案他について説明。総務部からのコメントはp 15記載の四点だされているとの説明がなされた。以下、項目毎に意見が出された。

<講習会 PR 費>

- 現状では、会員にはメール、非会員（官公庁含む）へはチラシ配布としているが、PRの手法について以下の意見が出された。
 - ・非会員にはメルマガ登録を推進してはどうか？
 - ・講習会参加時に次回以降の開催予定表を配ったらどうか（確定していない可能性もあるが・・・）。
 - ・講習会参加者へのアンケートを実施している（メールアドレスを記載）が、現状では感想を尋ねるだけである。今後は、次回以降の情報提供について尋ねるようなことをすべきではないか。
 - ・また、講習会参加申し込み時にもメールアドレスを記載してもらおうが、ここでも開催情報が必要かどうかを尋ねることとしたらどうか。

<講習会開催計画>

- ✓ 講習会は、年度初めにも開催するようにする。年度初めは、新入社員や異動で地盤に携わるようになった人向けの講習会が良いのではないかと。設計計算演習は、書籍を今年度発刊予定であり、来年度初めに講習会を設定するように考える。
- ✓ p 22 予算は保守的に見積もって立案しており、より実態に近い形に見直す。（渡邊委員長）

<継続システム委員会>

- ✓ 建設系 CPD 協議会の全体会合があったが、参加者約200名中、G-CPDの申請者は1名であった。
- ✓ 実情はこの通りであるが、システム使用料（552,000円）は見直せない。

<会員事務費>

- 会費徴収方法について、自動引落とし、カード払いなどの方法を検討することとする。
- 全国大会参加費に年会費と一緒に支払えることを検討したらどうか。そのような希望を出す会員がいる。併せて、全国大会参加申し込み時に会費納入状況がチェックできるようなシステムを検討することとする。
- 総務部コメントにある会費の回収状況について事務局で納入状況をチェックすることとする（PDCA活動）。

<男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会>

- ✓ メンター制度に関しても委員会の中で協議中であり、CPDの付与についても検討している。

<学会活動の活性化について>

(会員増)

- 3月に学生会員にアンケートを送るが、その際、会員継続（ダイバーシティ会員制度の紹介含め）を要請するようにする。
- 具体的アクションとして、学生については大学教授（地盤系教官）に対して退会回避要請を2月に、企業（地盤系部署の職場上司）に対して異動職員に対して入会促進を要請する文書を4月に、送付するこ

ととする。

- 特別会員にも入会促進について要請の文書を送ることを検討する。
- ✓ 関西で特別会員が増加している。これは、支部の尽力によると思われるが、やはり結局はヒトの繋がりをもとにした勧誘が功を奏す。
- 過去に遡って退会会員の分析（所属、理由等）を事務局に依頼。退会の大きな要因は、景気減速に伴うものと予想されるが、昨今の建設業界の活況で退会会員の幾らかを呼び戻すことも可能ではないか。
- 広報委員会とも連携し、入会を呼びかけるポスター（QRコード付き）を作成することを検討する。
- 職場版制度があまり知られておらず、PRすることを検討する。

2) 講習会の削減について

- ✓ 削減の必要なし。

4. 所管委員会関連

1) 地盤品質判定士

別添資料

- ✓ 現状776名の合格者で、当初目標 5年間で1000名の目標が達成できそうな状況である。
 - ✓ 初めての資格更新を二年後に迎える。
- 地盤品質判定士協議会より以下の二点、要請があった。
- 事務局のバックアップ体制を組んでもらいたい。事務局運営を現状3名体制で実施しているが、支障を来すことがある。
(この要請に対し)
 - 協議会側で3名（コンサル、ゼネコン、ハウスメーカー各1人 在京者）指名し、会員支部部の継続システム委員会に所属し、連携を図れる体制とすることとすることが了承された。
 - 地盤品質判定士の活動についても CPD を付与してもらいたい。
(この要請に対し)
 - 協議会主催の講習会参加に対しては、地盤工学会主催の講習会参加者に G - CPD を付与するのと同様に付与することが了承された。本件は理事会に報告事項として上げる。
 - 委員会参加に対する CPD 付与については、会員であれば地盤工学会での活動と同様に認めることとするが了承された。非会員については、協議会が参加証明書を発行し、受領者が各自で CPD 申請を他団体に行うこととする。

2) 技術普及委員会

3) 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

資料ー4 pp.39~45

- ・男女共同参画学協会連絡会関連
 - 第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 参加報告
- ・国際地盤工学会 第15回アジア地域会議関連
 - ホームカミングイベント参加報告
- ・その他

4) 継続教育システム委員会

- ✓ 会員メリットの一環として、積極的に CPD を付与することを検討すべきとの意見が出ている。地盤工学会では、現状では自己学習に CPD を認めていない（他学会では認めている）。

- 自己学習（会誌購読等）に対しても CPD を付与することに改める。本件については、理事会への報告事項とする。

5) 会員データベース管理システム改善 WG

6) 支部活動情報の収集配信 WG

7) 学会 BCP 検討 WG

5. 会員処理

1) 1月に平成28年度会費請求を行う件

2) 研究発表会申込みの際に会員情報（会員番号及び氏名）を使用する件について

- 調査・研究部からの、『全国大会論文受付時に会員情報を利用したい』との要請に対し、会員・支部部として了解することが了承された。

6. 新入会、ダイバーシティ制度申請

資料－5 pp.46～52

- ✓ p 49 「出身分野別正会員構成」図の“農業工学”、“資源工学”の『工学』は不要ではないか。

- 他学会との連携については、工学系7学会の会長懇談会に出席された宮田総務部長にヒアリングし、相談をする（佐藤部長）。

7. その他

1) 第18回事業企画賞

資料－6 pp.53～54

- ✓ 第18回事業企画書に関して、会員・支部部会から「サロン・土・カフェ W」事業が推薦されたことが報告された。

2) 功労賞の候補選出

資料－7 pp.55～77

- ✓ 功労賞の推薦依頼に関し、まずは事務局で対象となり得る該当者のリストアップを試み、その結果で判断することとされた。

8. 次回以降の部会等開催日程

- ✓ 次回部会開催を2016年2月26日 15:00～ とする（予定）。